

## FA:ファンクショナル・アプローチとは

「ファンクショナル・アプローチ(以下 FA)」とは、価値創造の技術・手法です。1947年にGE(ゼネラル・エレクトリック)社で開発されて以降、米国社団 SAVE インターナショナル(以下 SAVE)を中核として、世界各国で活用され続けています。

国や団体により、VE(バリュー・エンジニアリング)、VA(バリュー・アナリシス)、バリュー・マネジメント等様々な呼称が存在しますが、SAVEは現在(2016年頃から)、その総称をバリュー・メソドロジー(以下 VM)としています。

日本においては、1950年代より、日本生産性本部が米国へ使節団を派遣、自国へ持ち帰り後、主に製造業において、VEとして適用し始めました。ものづくりの現場において、主にコスト・カット、コスト・マネジメントの手法として広く使われてきました(「モノ」への適用)。

製造業のみではなく、サービス業や組織等あらゆる業界・分野へ(「モノ」だけではなく「コト」へも)、またコスト削減だけではなくパフォーマンス向上、価値創造も包括し適用すべく、新技法等研究開発&実装し、発展させたものがFAです。VMは進化しています。FAは、SAVE発のVM世界基準に、常に準拠しています。

## FAの思考システム

FAは、「問題解決の技術」、「改善の手法」、「イノベーション創出の手法」とも言われます。「知恵を生み出すアプローチ」であり、言わば、「創る力」、創るためのツールと言えます。

FAの基本的な思考として、「モノ・コト」を、一旦「ファンクション」に置き換え、アプローチしていく考え方・視点が有ります。「ファンクション」とは、「機能」のみならず、「目的」、「効用」、「意図」等も指します。「モノ・コト」の本質やメカニズムを分析・解明する論理的思考がFAの基盤に存在します。

さらに、固定観念を取り除き創造力を発揮する創造的思考、具現化に導くデザイン思考も駆使します。発散&収束思考、分析技術、評価技術をつかい体系的に推進していくものです。だから、革新的にも拘らずエビデンスに基づいた信頼性高い最善策(案)が創出されるのです。

FAには一連のフェーズがあり、対象を定め、正しく捉えるところから、分析、創造、評価、開発、実装まで効率よく推進します。一方、各フェーズで用いる思考や技術は、日々直面する様々な問題・課題に対し、応用力高く活用できます。

## FAの効用・適用対象

- **改善活動・問題解決**(商品、サービス、プロセス、組織、業務)/ 現行のカタチを「見える化」します。しくみや本質を明確に捉え示します。あるべきすがたからのギャップを割り出し、目標へ向けての生産性高い推進を可能にします。汎用性が高く、小規模な改善活動から、ダイナミックな改革プロジェクトまで、対象に応じての計画推進が成されます。
- **事業開発・商品開発**/ ものづくり、モデル・しくみづくりのための、強力なツールとして貢献します。FA適用により開発の各フェーズにおいて、ヌケモレを極限に排除しながら、計画的推進をリードします。
- **人材育成・組織開発**/ FAスキルの習得=課題発見力、分析力、思考力、構成力、そしてコミュニケーション力、さらにはファシリテーション力、リーダーシップ力の向上につながります。進化する個人となります。

FAスキルを組織内に投入すると、自律的な改善活動が生じ、改善体質の組織風土が醸成されます。組織にFA改善のしくみを構築すると、進化する組織となります。

